

令和8年度

シ ラ バ ス

SYLLABUS

作業療法学科3年生



健祥会学園
KENSHOKAI GAKUEN

目 次

カリキュラム

専門分野(作業療法学科)

作業療法マネジメント論.....	1
作業療法臨床教育論.....	2
臨床作業療法学Ⅰ.....	3
臨床作業療法学Ⅱ.....	4
臨床総合実習.....	5

專 門 分 野

作業療法学科

【科目名】作業療法マネジメント論

【教員名】奥野 剛史

【教員の実務経験】有

無(作業療法士免許及び経験を有する教員が、作業療法におけるマネジメントについて教授する。)

【授業方法】講義 演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】作業療法学科・3年・前期

【必/選・単位数(時間数)】必修・1単位(15時間)

【授業概要と目的】作業療法における制度と作業療法士の生涯学習について学び、自身のキャリア形成について考える。

【到達目標】学生は、以下のことができるようになる。

1. 作業療法に関する制度について説明できる。
2. 作業療法研究の基礎について説明できる。
3. 作業療法の倫理に関する規範・原則を説明できる。
4. 作業療法の生涯学習を理解し、自己研鑽の必要性と方法を説明できる。
5. 人材育成の手法を説明できる。
6. 自身のキャリア形成について考えることができる。

【教科書】なし

【参考書等】資料配付

【成績評価】定期試験 小テスト 課題レポート(100%) その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	職業倫理	日本作業療法士協会の倫理規定について	奥野 剛史
2	研究法①	作業療法研究の基礎と実際について	〃
3	研究法②	作業療法研究の基礎統計方法について	〃
4	研究法③	参考・引用論文の検索と使用について	〃
5	人材育成①	臨床で求められる人材育成のマネジメントについて	〃
6	人材育成②	キャリア開発について	〃
7	生涯学習①	職能団体の意義と役割	〃
8	生涯学習②	作業療法士の資格認定制度	〃

【授業時間外の学習】配付された資料を基に、その内容を自分なりにノートにまとめておくこと。十分な理解を得るためには予習及び復習を必ず行う。十分な理解を得るためには予習及び復習には、各2時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】講義中は講義内容を理解することに注意を払う。講義に対する取り組みの姿勢(私語や受講態度)については厳しく指導する。また、疑問点があれば積極的に質問をすること。

【オフィスアワー】毎月曜日 17時から17時30分まで(本館事務室前)

【科目名】作業療法臨床教育論

【教員名】井手 法子

【教員の実務経験】有

無(作業療法士免許及び経験を有する教員が、臨床における教育方法とその管理法について教授する。)

【授業方法】講義 演習 実習、実験、実技

【学科・学年・期】作業療法学科・3年・前期

【必/選・単位数(時間数)】必修・1単位(15時間)

【授業概要と目的】対象者に対し、効率的、効果的にリハビリテーションを提供するために、保健・医療・福祉の制度の仕組みを理解し、その作業療法部門の管理運営を知る。また、作業療法士として業務遂行上起こりうる事故の対応について学び、重大な事故発生を防ぎ、適切な対応を行える職業人を育成することを目標とする。また、多職種連携を密に行うことの重要性を理解し、職業倫理を形成することを目的とする。

【到達目標】学生は、以下のことができるようになる。

1. 臨床実習において必要な医療保険制度を理解する。
2. インシデントやアクシデントなど危機管理体制について理解する。
3. リハビリテーションチームにおける多職種連携について理解する。

【教科書】なし

【参考書等】資料配付

【成績評価】定期試験 小テスト 課題レポート(100%) その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	身分法	医療に関する法律と療法士法について教授する。	井手 法子
2	連携	多職種連携と地域連携について教授する。	〃
3	情報の記録と取り扱い	個人情報適切な取り扱いや、診療記録について教授する。	〃
4	事故対応	ヒヤリハット事例を通じた事故マネジメントについて教授する。	〃
5	演習①	心肺蘇生法の演習①	〃
6	演習②	心肺蘇生法の演習②	〃
7	演習①	医学的リスク管理について。	〃
8	臨床実習	作業療法臨床実習の理解について教授する。	〃

【授業時間外の学習】配付された資料を基に、その内容を自分なりにノートにまとめておくこと。十分な理解を得るためには予習及び復習を必ず行う。十分な理解を得るためには予習及び復習には、各2時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】講義中は講義内容を理解することに注意を払う。講義に対する取り組みの姿勢(私語や受講態度)については厳しく指導する。また、疑問点があれば積極的に質問をすること。

【オフィスアワー】毎金曜日 17時から17時30分まで(本館事務室前)

【科目名】臨床作業療法学Ⅰ

【教員名】船越 稔、秋山 健太、奥野 剛史、田村 恭佑

【教員の実務経験】 ■有(臨床の作業療法士(船越・秋山)および作業療法士として実務経験のある教員(奥野・田村)が、臨床に必要な実践的な作業療法について教授する。)

□無

【授業方法】 ■講義 □演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】作業療学科・3年・前期

【必/選・単位数(時間数)】必修・1単位(30時間)

【授業概要と目的】臨床実習に向けた作業療法評価の統合と解釈を中心に、実践的な評価の基本や治療計画の立案と基本的介入方法について教授し、臨床実習に臨むための準備が整うことを目的とする。

【到達目標】学生は、以下のことができるようになる。

1. 作業療法評価の目的と適応を十分理解し、基本的な評価を実施できる。
2. 病態に応じた、評価計画や現実的な介入計画を立案できる。
3. 内部障害の病態や合併症に対する評価やアプローチについて理解できる。
4. 精神科領域の評価など理解ができ、口頭で説明できる。

【教科書】資料配付および配信

【参考書等】なし

【成績評価】□定期試験 □小テスト ■課題レポート(100%) □その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	脳血管疾患①	中枢疾患に対する評価について①	船越 稔
2	脳血管疾患②	中枢疾患に対する評価について②	〃
3	脳血管疾患③	中枢疾患に対する治療について(症例検討)	〃
4	脳血管疾患④	中枢疾患に対する治療について(症例検討)	〃
5	高次脳機能①	高次脳機能の作業療法評価について教授する①	田村 恭佑
6	高次脳機能②	高次脳機能の作業療法評価について教授する②	〃
7	高次脳機能③	高次脳機能の作業療法評価について教授する③	〃
8	高次脳機能④	高次脳機能の作業療法治療について教授する④	〃
9	高次脳機能⑤	高次脳機能の作業療法治療について教授する⑤	〃
10	地域作業療法	地域作業療法の実際について教授する	〃
11	精神疾患①	精神科領域における時期別介入①	秋山 健太
12	精神疾患②	精神科領域における時期別介入②	〃
13	整形疾患①	整形疾患に対する画像診断について	奥野 剛史
14	整形疾患②	整形疾患に対する評価と治療について	〃
15	整形疾患③	除痛アプローチと徒手療法の基礎について(実技)	〃

【授業時間外の学習】その日のうちに復習を行い、講義で指摘された専門用語や配付あるいは配信された資料を確認するとともに、その内容を自分なりにノートにまとめ、次の講義まで確認しておくこと。また、OSCEでは、事前に実技練習などを行っておく。十分な理解を得て記憶するためには予習及び復習には、各2時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】講義中は講義内容を理解することに注意を払う。講義に対する取り組みの姿勢(私語や受講態度)については厳しく指導する。講義には必ず配付(配信)された資料などを持参すること。実技では実習に備え動きやすい服装、実習で必要とされる身だしなみで臨むこと。また、疑問点があれば積極的に質問をすること。

【オフィスアワー】

奥野：毎月曜日 17時から 17時30分まで(本館事務室前)

田村：毎月曜日 17時から 17時30分まで(本館事務室前)

【科目名】臨床作業療法学Ⅱ

【教員名】井手 法子、船越 稔、石井 誠二、佐藤 信治、大前 博司

【教員の実務経験】■有(臨床の作業療法士(石井・佐藤・船越・大前)および作業療法士として実務経験のある教員(井手)が、臨床および国家試験に必要な実践的作業療法について教授する。)

□無

【授業方法】■講義 ■演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】作業療法学科・3年・後期

【必/選・単位数(時間数)】必修・1単位(30時間)

【授業概要と目的】臨床実習で培った専門能力を基に最新の福祉・医療・保健の分野の知識の統合を図る。また、国家試験問題の傾向を分析し、重要と考えられる事項に関して解説を行うとともに、学習成果の確認を行うことを目的とする。

【到達目標】学生は、各講義内容に関する過去の国家試験の内容を理解し、説明できる。

【教科書】資料配付および配信

【参考書等】なし

【成績評価】□定期試験 □小テスト ■課題レポート(100%) □その他

【授業計画】

回数	テーマ	授業内容	教員名
1	臨床思考①	クリニカルリーズニングについて①	船越 稔
2	臨床思考②	クリニカルリーズニングについて②	〃
3	臨床思考③	クリニカルリーズニングについて③	〃
4	国家試験対策①	排泄機能障害の基礎知識について	井手 法子
5	国家試験対策②	排泄機能障害に対する評価について	〃
6	国家試験対策③	呼吸機能障害の基礎知識について	〃
7	国家試験対策④	呼吸機能障害に対する評価について	〃
8	国家試験対策⑤	手の外科の作業療法について(総論)	石井 誠二
9	国家試験対策⑥	手の外科の作業療法について(各論)	〃
10	国家試験対策⑦	リウマチの作業療法について(病理・病態)	佐藤 信治
11	国家試験対策⑧	リウマチの作業療法について(介入)	〃
12	国家試験対策⑨	循環器の作業療法について①	田村 恭佑
13	国家試験対策⑩	循環器の作業療法について②	〃
14	国家試験対策⑪	職業関連作業療法について①	大前 博司
15	国家試験対策⑫	職業関連作業療法について②	〃

【授業時間外の学習】その日のうちに復習を行い、講義で指摘された専門用語や配付された資料を確認するとともに、その内容を自分なりに自己学習ノートにまとめ、次の講義までに覚えておくこと。十分な理解を得て記憶するためには予習及び復習には、各3時間程度を要する。

【履修条件・注意事項】講義中は講義内容を理解することに注意を払う。講義に対する取り組みの姿勢(私語や受講態度)については厳しく指導する。講義には必ず配付(配信)された資料などを持参すること。また、疑問点があれば積極的に質問をすること。

【オフィスアワー】

井手：毎金曜日 17時から 17時30分まで(本館事務室前)

田村：毎金曜日 17時から 17時30分まで(本館事務室前)

【科目名】臨床総合実習

【教員名】臨床実習指導者

【教員の実務経験】■有(臨床実習指導者(作業療法士)が作業療法士に必要な知識および技術について指導を行う。)

□無

【授業方法】□講義 □演習 ■実習、実験、実技

【学科・学年・期】作業療法学科・3年・前期

【必/選・単位数(時間数)】必修・18単位(810時間)

【授業概要と目的】臨床実習期間は1期・2期ともに9週間とする。学生は、各臨床実習施設において、実習指導者(作業療法士)のもとで評価、治療、記録、管理的な場面を経験(見学・模倣・実施)する。さらに、学内で習得した理論と技術を生かし、問題点の提示とその解決手段を学び、将来に作業療法士として対象者に接する際に必要となる基本的知識・技術・態度を身につけることを目的とする。なお、実習形態は参加型とする。

【到達目標】学生は、以下のことができるようになる。

1. 臨床場面において実際の症例と関わることにより、学園で学んだ基本的な知識や技術を統合し、作業療法の一連の流れを経験する。
2. 対象者への接し方、問診の仕方、インフォームドコンセントについて学ぶ。
3. 診療場面での対象者の評価の実際を学び、その内容を統合・解釈し問題点を見出し、治療プログラムの立案を実習指導者と共に実施する。また、そのプログラムに基づき治療の実際を経験する。
4. 評価・治療の実際の経験に基づき、治療プログラムの確認・修正を実習指導者と共に経験する。
5. 可能な限り生活行為向上マネジメントを用いた作業療法を経験する。

【教科書】実習の手引き

【参考書等】なし

【成績評価】□定期試験 ■課題レポート(デイリーノート)

■その他(実習施設評価 60%、学内実習評価 40%)

【授業計画】

実習名	実習期間
臨床総合実習	令和8年4月下旬～7月上旬(45日)
	令和8年7月中旬～9月下旬(45日)

【授業時間外の学習】臨床実習指導者(作業療法士)に指導および指示された内容について予習と復習を行う。

【履修条件・注意事項】実習の手引き参照

【オフィスアワー】学校(担任)への電話連絡